

location  
[どこにもないモビリティ]  
creativity



file.  
02

## アイデアが輝く、 和歌山のモビリティメーカー

glafit 株式会社 住所/和歌山市出島36-1  
メール/pr@glafit.com

glafit社が提供するものは、単なる移動手段というより、乗ってどこかに出掛けたいような新しいモビリティだ。昨年5月にシリーズ第二弾となる「X-SCOOTER LOM」を発表し、再びクラウドファンディングで注目され1.5億円を集めた。そのフォルムはまるでキックボード。乗っているだけでワクワクドキドキするような体験を味わえる。「つねにチャレンジ」を続けるglafit社は、日本を代表する「次世代乗り物メーカー」を目指す。



2017年に開発した自転車×バイクの両者を  
掛け合わせたハイブリッドバイク

**ブレイクのきっかけは?** 2017年に行ったクラウドファンディングで、当時国内最高額の1億2800万円を超える資金を集められたことです。複数経営していた会社の一事業として立ち上げたのがglafitでした。その後は多くの企業と資本提携や技術提携を結び、今では多くの部分を和歌山で組み立てています。  
代表取締役 鳴海禎造さん



file.  
03

## 世界が注目する 新素材をリリース

株式会社 岡田織物 住所/橋本市高野口町大野757  
電話/0736-42-2864

動物愛護の観点からリアルファーを敬遠するスーパーブランドが増える中、世界中から注目を集めているのが岡田織物だ。一昨年は見学・商談に国内外合わせて156社が来社したという。なかでも三菱ケミカルが開発したコアブリッド・サーモキャッチを原料に開発した生地は、太陽光を熱エネルギーに変換する機能と帯電防止機能を兼ね備える画期的なもの。近隣他社とコラボし、世界にマーケットを広げている。

location  
[発熱するフェイクファー]  
collaboration

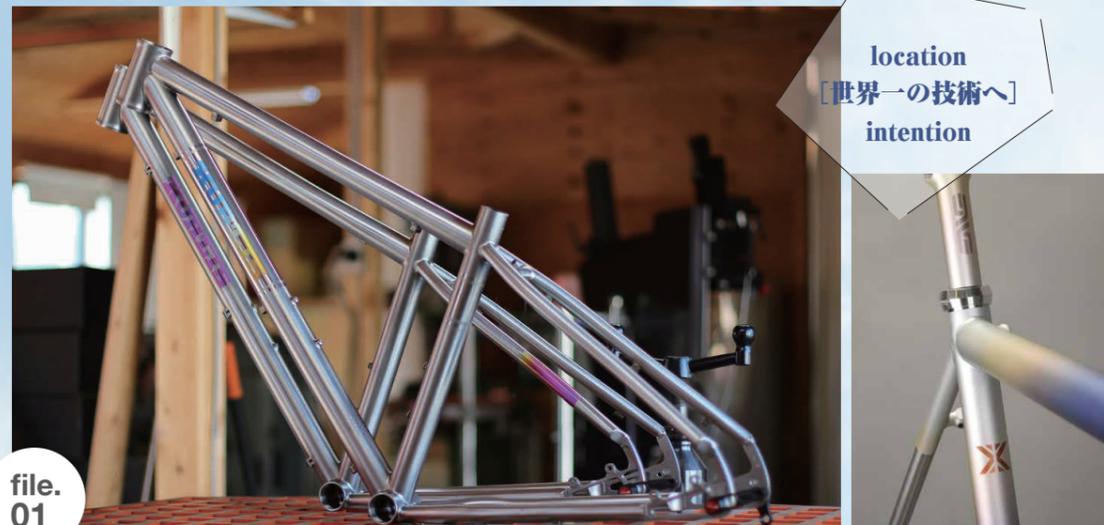
**地場産業だった訳ですが。** 高野口町における繊維業界の全盛期は昭和57年頃。現在の規模はその10分の1程度です。当時はBtoBが主で消費者の顔など見えていませんでした。現在、当社は町内の15~20社と連携することで、メイドインジャパンにこだわりながら小ロットにも対応し、世界を相手にビジネスができるようになりました。  
代表取締役 岡田次弘さん



# 世界に誇る和歌山の技術力

世界的にも有名な経済人から企業まで生み出してきた、進取の気質溢れる和歌山県。その潮流は今も息づき、そして新しい息吹が芽生え続けている。世界が注目するそんな和歌山の企業を紹介したい。

location  
[世界一の技術へ]  
intention



継ぎ目のないチタンパイプからフレームを作る。見た目はわからないが、パイプを削ることで剛性を変え、乗り心地のリクエストに答えているという。チタンのグラデーションも美しい。

file.  
01

## 美しきチタンの輝き。世界が注目する ハンドメイド自転車フレームメーカー

KUALIS CYCLES 住所/和歌山市市小路  
メール/kualiscycles@gmail.com

独特の雰囲気を感じるチタンフレーム。その鮮やかな発色はペイントではなく、電圧をかけて変色させたもの。そんな魅力的な自転車フレームを作っているのが、クオリスサイクルズの西川喜行さんだ。西川さんはもともと住宅などの設計士で、ある日、都内を走るメッセンジャーと呼ばれる人たちの自転車フレームに見惚れてフレーム作りに興味を持った。そしてすぐ都内のフレームメーカーに就職。そこで基礎的な技術を習得する傍ら、チタン加工技術を学ぶために外国へ行くことを決意。独学で英語の勉強をし、世界中に履歴書を送り、世界的に有名なアメリカの「セブンサイクルズ」に入社した。そこで貪欲に技術を学び、6年後には同社

で働きながらクオリスサイクルズを起業した。ある程度の好感触を得て日本へ帰国し、和歌山市にある実家隣に現在の工房を立ち上げた。フレームの大きさを乗り手に合わせるの当たり前だが、シームレスのチタンパイプを0.05ミリ単位で削り、フレームのしなり具合を調整し、乗り手が求める乗り心地に答える。その繊細で確かな技術が認められ、今ではオーダーの20%程度が、シンガポールやマレーシア、ドイツやイタリアといった海外からで、国内オーダーも合わせ、約1年ほどの注文待ちの状態となっている。目標を見定めたら一直線。そのために今の状況に満足せず努力を重ねる。西川さんの視線は常に何歩も先を向いていた。

**ターニングポイントは?**やはりチタンフレームで世界的に有名だった「セブンサイクルズ」へ入社できたことですね。ワーキングビザの取得は難しく、日本のフレームメーカーにいた4年間は仕事と英語の勉強で、ほとんど遊んでなかったような気がします(笑)。



アメリカセブンサイクルズにいた頃のテクニカルノート。ピッチリと書き込まれた技術は、現在の仕事のベースになっている。入社した6年ほどでほぼ全ての部署を経験し、マネジメントも行うようになった。